

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修で、理念に基づいたケアについて学び、実践できるように日々努力している。	法人の基本理念「愛と希望」をもとに基本運営方針を定め、理念に関する職員研修を実施するとともに、職員とともに年度目標を検討し、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なじみの店に行けるように外出したり、地域のボランティアの方々に来て頂き交流をもつて頂いている。	近隣の幼稚園の園児とは、ホームの畑でさつまいもの苗植えや収穫を手伝ってくれたり、歌を歌いに来てくれるなどの交流が行われています。また、大学生のボランティアの受け入れや大学の学園祭への参加、地域のボランティアの方にも定期的に来て頂くなどして地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬和学園大学生の実習の場として、机上では勉強できない心のケアを実践を通し交流の場として提供している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、地域の民生委員の方、ご利用者様、ご家族様代表等の方に参加していただき、ご意見、感想を頂いている。	2ヶ月に1度、包括支援センター職員、敬和学園副学長、民生委員、ご家族代表、ご利用者代表に参加してもらい、ご利用者の状況報告、ホームでの活動報告などを行い、意見交換をし、ホームの運営に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な問題や運営についての指導を頂き、相談に乗ってもらっている。	市の職員には運営推進会議にも参加いただいているほか、必要に応じて運営の相談に乗ってもらうなど、連携をとりながら運営を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する事例とともに検証し、日々のケアに取り組んでいる。	玄関の施錠も夜間帯のみとするなど、身体拘束を行わない方針で運営しており、職員の理解を深める為の事例検討も行いました。状況によってやむ得なく身体拘束をする場合にもご家族に説明・同意を必ず行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、ケアカンファレンス等で検討・検証し同時に学びの時としている。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、虐待の防止についての職員の理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の担当者が中心となり実践しているが、職員全体で共有していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明と疑問点を訪ね、以後も不明な部分においては説明できるよう窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会や電話でのご家族のやり取りにて、要望の確認をしているほか、ご家族代表の方には運営推進会議に参加してもらいご意見、ご要望を伺っている。	日常の面会時や電話でのご家族とのやり取りにて要望の確認をしているほか、ご家族代表には運営推進会議にも参加していただいています。	定期的にご家族がホームに集まる機会を検討し、より率直な意見が収集できるようにされることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議内で、提案意見が出た内容を、リーダー会議で話し合い、必要な内容は職員会議で話し合い改善等に努めている。	日常のやりとりや毎月のユニット会議で職員の意見や要望の確認を行っています。また、職員の状況に合わせた個別面談も行なうなど、職員の意見を確認できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすくなるような雰囲気作りに努め、スタッフの努力と実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容によってスタッフの力量に合った研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加を通し、他同業者との交流の場として意義を持たせている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時に要望、やりたい事等お伺いし安心して生活できるサービスが提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時に要望をお聞きし、ケアプランに反映できるようにしている。又、入居後もFaとコミュニケーションを通し、要望、不安な事等言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された時その方を一番に見つめ、傍に寄り添い、どの様なサービスを提供してほしいのかをスタッフ間で情報共有し、サービス提供が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や自立支援としてのかかわりのみならず家事的な事や、他の入居者の精神面のケアについても協力していただき、助けていただくこともある。時には親子、家族、友人のような心境で親しくかかわる事もある。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際には、日々の日常や状態をお話している。また、家族が利用者との外出を希望されている時にはいつでも外出する事が出来る状態になっている。	年に2回事業所広報を作成しご家族に送付したり、担当者より毎月、日頃の活動の様子や状態をまとめたお手紙をお送りするなど、ご家族とも情報が共有できるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せき、友人等が面会に訪ねてくる。また自由に外出・外泊を行って頂き、お盆や正月には外出・外泊を行っている。	ご家族の協力も得て買い物支援や外食支援、行きつけの理美容室への利用支援なども行って頂いています。また、知人や親族の方に面会に来て頂いたり、担当職員と一緒に買い物やドライブにも出かける等、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	ご利用者と職員と一緒に個別外出する際のホームとしてのルールを検討し、職員に周知されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのテーブルの位置で関係の持てる者同士を一緒に座ってもらうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に退去後も必要時は支援していく事を伝え支援していく事に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の動きを観察しながら会話をし、気持ち聴くよう努めている。	日々のご利用者とのやりとりにて要望を確認し、その都度対応するように心がけています。また、サービス担当者会議にはご利用者、ご家族にも参加して頂き意向の把握に努めています。	調査時点で介護計画に対するご家族からの意向確認の記録がない方もいましたので、今後改善されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にカンファレンスや全体会議を行い、生活歴や既往歴等把握しておかなければならない点を周知している。	入居の際にご利用者、ご家族等から確認した情報をもとに、これまでの生活の情報をフェイスシートにまとめています。また、1年に1度はフェイスシートの見直しも行き、日々の生活の中で得られた情報も追加しています。	ご利用者の生活歴やなじみの暮らし方も記載できるようにフェイスシートを見直し、職員間で情報を共有されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の共有にて様子を把握しあい努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が生じた時点で直ぐに会議を行いケアプラン等の修正・変更を行っている。	ユニット会議にてご利用者の状態を確認し、モニタリングも毎月実施しています。また、サービス担当者会議も行き、ご利用者、ご家族とともに介護計画の見直しを行っています。	調査時点でケース記録と介護計画実施表にズレがある箇所もありましたので、今後ミスが無いように検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをもとに様子を見て変更点等ある場合はカンファレンスで話し合い変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフで会議をし、サービスについてなど入居者の状態を相談しあい共有しサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係性を深め一人一人の暮らしが安心して過ごせる様支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の本人の状態をよく把握し、ご家族の意見などを大切にし速やかに受診されるよう支援している。	ご利用者・ご家族の希望に合わせた医療機関にて受診しています。基本的に受診支援はご家族にお願いしており、必要に応じてホームからも医師へ情報提供を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「何かおかしい」と感じる症状が現れたら適切に看護師に伝え指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、様子を見に行き、病棟の看護師から、情報を得る。必要時は医療連携室に相談、協力をして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から本人の想いはどこにあるのかどうなのか、知る様に関わり情報を共有している。家族、医療関係者と話し合いを持ち今後のケアの方針を決めている。	管理者は医療行為が伴わなければ支援は行っていきたいと考え、ご利用者の状態に合わせてご家族との検討の機会も持つなど、ホームで出来る支援は行っていきたいと考えています。	ホームとしての重度化対応や看取りに関する方針を作成し、ご家族に分かりやすいように文章化されることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを読み、日頃からその動きを頭に置き、落ち着いた判断・行動を心掛けているが訓練は行っていない。	職員会議でも緊急時の対応について検討する場を持つなど、職員が適切な初期対応ができるよう支援しています。	ホームにて救命救急の研修を定期的実施し、緊急時に多くの職員が適切な初期対応ができるようにされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練で様々な場合の方法を学んでいる。地域との協力は、夜間は周囲の会社からの協力を得るのは難しい。	年2回、ホームにて日中・夜間の火災を想定し避難訓練を実施しています。	災害時に対応できるように、緊急連絡網を使用した訓練も実施されることを期待します。また、災害時の地域との協力体制を確認するためにも、地域の方へ避難訓練への参加要請をされることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に対する接し方を心掛け、その人に合った話や声かけをしている。特にトイレ誘導には、大きな声で話しかけたりしない。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、ご利用者の尊厳を大切にしたいケアに努めています。また、契約時にはご利用者の写真の広報の掲載についても同意が得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の声かけの際に「はいりましょう」ではなく「入りませんか？」と本人の意思を聴いたり、「〇〇が飲みたい」等の希望があればなるべく希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のしたいことは出来るだけ思うように動いて頂く。趣味なども思い思いの事を実施して頂いている。(畑仕事や編み物等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「こういう服装がいい」と希望されれば希望の洋服を選んで。髪の毛の希望も本人の思いに沿えるよう床屋へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、食器洗い、拭きあげ等意欲的にされる方にはスタッフとともに行って頂く。盛り付けなどは立位の不安定な方等が席で行っている。	ご利用者の状態に応じて野菜の皮むきや食事の盛り付けなども手伝ってもらっています。ホームには畑もあり、ご利用者にも野菜の収穫を手伝ってもらっています。誕生日にはご利用者の嗜好を取り入れたメニューにしたり、お好み焼きパーティーを行ったり、干し柿作りもご利用者と一緒に行うなどし、食事を楽しんでもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーを控えなければいけない方、飲み物は冷たいもの、熱めの物など本人の希望にてお出ししている。スプーンやストローを希望の方等状態に合わせて出している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は就寝時、洗浄剤にて汚れを除去している。歯磨きも出来る所は実施して頂いている。朝・晩の2回がほとんどで、昼食後はうがいで対応している方が多い。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の無い利用者には、布パンツをはいて頂いている。また、トイレ誘導にて排尿を促している。	ホームに入居されて最初の2週間は排泄チェックを行いご利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけを行い、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排泄記録を確認している。各々に合った食事(細かく切る等)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者の希望を優先する。また、入浴したい時間帯を本人から聞きその時間に合わせ入浴を行っている。	入浴はご利用者の希望に応じて支援しています。季節に合わせたゆず湯や菖蒲湯を実施したり、入浴を嫌がる方にもタイミングを見計らい声かけして、お風呂に入ってもらうよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に横になれる様にベッドの整理整頓に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診を行い、家族より薬の変更等があったと説明を受けた際には、業務日誌・ケース記録に記載し申し送りを行っていく。また薬と同時に貰った処方箋に関しても本人のケース記録に綴っておき、いつでも見る事の出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発的に家事的な事をしていただいたり、手作業、趣味的な事等個人個人自由に好きな事をして頂いている。花の水やりや散歩など共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、花の水やり、美容院などに出掛ける。遠い所や長時間に及ぶ際には家族と共に外出する。全体行事としても戸外の物も計画、実施している。	ご利用者にホームでの生活をより楽しんでもらえるよう、ご家族の協力も得て買い物支援や外食支援、行きつけの理美容室への利用支援なども行って頂いています。また、担当職員と一緒に買い物やドライブにも出かけるなどの支援を行っています。	ホームでも季節に合わせた外出行事も実施されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際に希望があれば、ほしいものを購入している。個人で管理したい方には、ご本人、ご家族と相談の上所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話は出来るようにしている。また、家族や友人より、電話がかかってきた場合もすぐにつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がホールにいるときは会話を積極的に言い、ホールにて過ごしてもらう時間を長く設けている。またゆずや菖蒲などを浴槽において季節を感じていただき、居心地の良い環境づくりを目指している	フロアにはソファやピアノが置かれていたり、畳のスペースもあり、ご利用者同士がテレビを見ながらゆったりと過ごせるようにされています。共有スペースからは、ホームの中庭もよく見え、畑の野菜や季節の草花を見渡すことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファ席を設けている。食事はテーブルの席で召し上がった後ソファで過ごされたり等自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族と相談し仏壇を置いたり、こたつや家具類で自宅に似た環境に近づけるようにしている。	ご利用者・ご家族とも相談し、仏壇やタンス等の家具やご家族の写真など、使い慣れた物、好みの物を持参し、居心地良く過ごせるように支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを見やすい位置に置いている。テレビ横の物干しは気になった方が乾き具合を見て、畳まれたり、モップを用意しておく、ホール内のドライモップを掛けたりして過ごされている。		